H24/12/15(土) 鶴岡タイムス

まちづくり
環境・ボランティア…

ウェブ上の仮想世界で公開
「バーチャル神明町」
空き家活用アイデア募る

アバターで「バーチャル神明町」を探索できる

鶴岡市神明町に点在する空き家や空き地を活用するアイデアを集めるため、鶴岡市はこのほど、3D仮想空間上のプラットフォーム「バーチャル・プラット・シティー」を開設した。

バーチャル・プラット・シティーは、アメリカのリンデンラボ社が開発した仮想世界「セカンドライフ」上に構築した「バーチャル神明町」。実際の神明町の街路や家並み、空き家が再現されており、自分の分身となるアバターを登録し、自由に歩きながら感じたことやアイデアを書き込むことができる。それぞれの空き家には、活用法としていくつかの提案や選択肢が用意してあり、アンケート形式で回答することで、データが蓄積される。

人口減少や高齢化などの影響で鶴岡市内では、住宅密集地の空洞化が増加。人が住まないまま家屋が朽ちたり、管理されないまま土地が放置されるケースが増えている。

市では、このような空き家、空き地を適切管理、有効活用して地域の活力を高めるため、小規模開発や区画整理の手法を研究中。その中で、首都大学東京大学院都市環境科学研究科の饗庭伸准教授とその研究室は、神明町をモデルに空き家、空き地の有効活用を盛り込んだ「神明町まちづくり計画」の策定に取り組んでいる。

バーチャル・プラット・シティーは、空き家、空き地の有効活用について、地域に直接かかわりのない人や、まちづくりと直結しない層からも意見やアイデアを多角的に聞くためのツールとして、同研究室が製作した。

閲覧、参加するにはインターネット環境が必要。バーチャル・プラット・シティーのウェブサイトの案内に従ってアバターを登録し、セカンドライフのアプリケーションをダウンロードする。登録、ダウンロード、参加は無料。

公開は来年1月10日まで。市建築課では「まずはどんなものか気軽に訪れてみてほしい。ゲーム感覚で自由な意見、アイデアを出して」と呼び掛けている。